ご利用案内

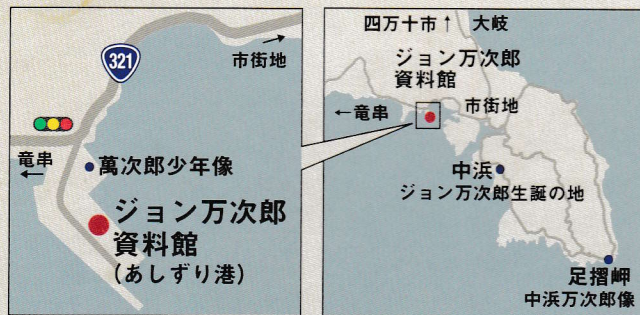
● 開館時間
8:30〜17:00
※最終入館16:30まで
(年中無休)

● 駐車場
バス24台
一般車両150台

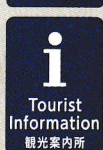
● 入館料

	大　人	小中学生
一般	400円	200円
団体 15人以上	320円	160円
福祉割引	200円	100円

有料展示エリア
A 漂流・救出
B アメリカライフ
C 日本帰国
D 幕末維新への扉

ⓘ 総合案内
1 万次郎の故郷・中浜
2 万次郎少年時代
3 多目的スペース
4 ジーンズ関連展示
5 姉妹都市交流関連展示
6 ワークショップルーム

交通案内
・車／高知自動車道「四万十町中央IC」より車で約1時間30分
・飛行機／高知龍馬空港より、車で約3時間
・鉄道／土佐くろしお鉄道「中村駅」より車で約40分
路線バスで約60分(「養老」下車)

ジョン万次郎資料館
お問い合わせ (一社)土佐清水市観光協会
TEL 0880-82-3155
[8:30〜17:00／年中無休]
〒787-0337 高知県土佐清水市養老303
ジョン万次郎資料館
http://www.johnmung.info/

ジョン万次郎資料館

偉人たちに影響を与えたジョン万次郎。

西洋の知識や文化を伝え、日本の近代化に貢献。
ジョン万次郎を抜きに、幕末を語ることはできません。

坂本 龍馬
高知県立坂本龍馬記念館 提供

岩崎 弥太郎
安芸市立歴史民俗資料館 提供

後藤 象二郎
高知県立歴史民俗資料館 提供

勝 海舟
江戸東京博物館 提供

萬次郎少年像

あしずり港広場にある群像。万次郎と、共に漂流した4人の仲間が助けを求める姿を表現。彼らの後ろにそびえる荒波の迫力もあいまって、とてもドラマチックな作品です。

◉交通
ジョン万次郎資料館より徒歩で約1分。

中浜万次郎像

昭和43年に足摺岬に建てられた像。手に航海と測量の道具であるコンパスと三角定規を握り、思い出深い太平洋をみつめています。

◉交通
ジョン万次郎資料館より車で東へ約30分。

ジョン万次郎が生まれ育った 中浜(なかのはま)

万次郎は貧しい漁師の家に生まれました。ここは古くからある小さな漁村で、万次郎少年が暮らした中ノ浜村の雰囲気が今でも色濃く残っています。

◉交通
ジョン万次郎資料館より車で東へ約20分。

❶ジョン万次郎生家(復元)
❷記念碑
❸帰郷150周年記念碑
❹万次郎の仮墓(大覚寺)

❺万次郎の奉公先(今津家)
❻万次郎の母の出里(中谷家)
❼万次郎が使用した井戸

幕末の日本に世界を伝えた国際人
ジョン万次郎資料館

幕末の日本に
世界を伝えた国際人

ジョン万次郎

[1827年（文政10年）－1898年（明治31年）]

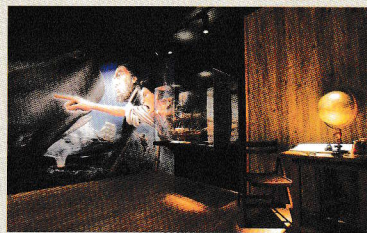
ジョン万次郎

ジョン万次郎こと中濱万次郎は今の土佐清水市中浜で漁師の次男として生まれました。14歳の時に漁に出て遭難。無人島に漂着し、143日もの過酷な日々を過ごした後、幸運にもアメリカの捕鯨船に助けられ、アメリカ本土上陸を果たします。
米国で学び、卒業後は船員をしていましたが、帰国を決意。カリフォルニアの金鉱で得た資金で船を購入。帰国後は教授や通訳として活躍。坂本龍馬や岩崎弥太郎、勝海舟にも影響を与えた人物です。

ジョン万次郎の主な功績

- **当時の先進的な技術や知識を伝える**
  英語や数学、航海術、測量術などを教え、万次郎から学んだ者の多くが、後に維新の要人となる。
- **名著「ボーディッチの航海書」を翻訳**
  日本初の外洋航海の専門書を翻訳。人材育成にも貢献した。
- **日本初の英会話教本「英米対話捷径」を出版**
  日本初の英会話ガイドブックを発表。「ABCの歌」も掲載。
- **咸臨丸で日本人初の太平洋横断に成功**
  通訳として、勝海舟たちと乗船。サンフランシスコに入港。
- **小笠原諸島を日本の統治下に置く**
  住民全員の同意を取り付け、日本の領土として統治する。
- **ホートン事件で不可侵、平等の外交に尽力**
  外国人水夫の裁判に際し、アメリカとの対等外交を目指す。

[1F展示室]

少年期ゾーン（中浜時代）

幼い頃から家族を養うために働く万次郎。漁に出て遭難し、米国へ。激動の人生の幕開け。

9歳で父を亡くした万次郎。奉公先を飛び出して漁師になるまでのエピソードや漁師仲間4人と遭難し、流れ着いた無人島でのサバイバル生活、捕鯨船に救出されて仲間と別れて1人でアメリカ本土に渡るまでの激動の日々を紹介します。

石臼
奉公先で使用した石臼で、万次郎が漁師になるきっかけを作った。現在は生誕地・中浜の高台にある記念碑前に設置されている。

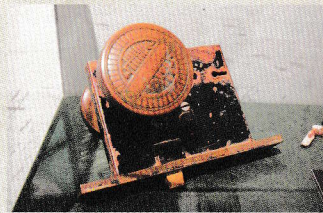
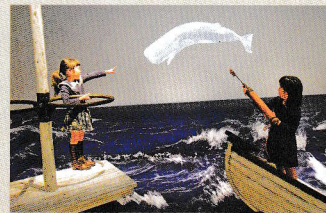
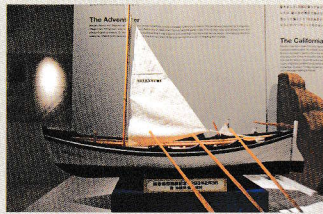
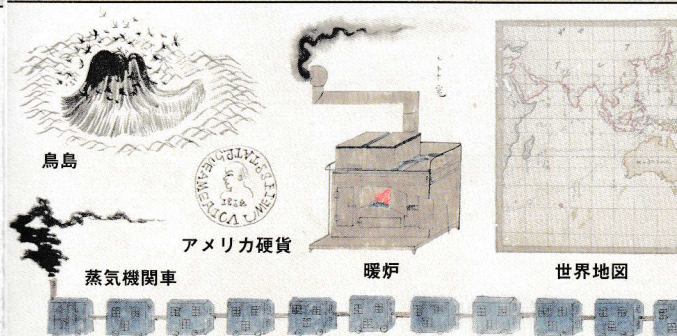
鳥島の模型
万次郎たちが漂流し、たどり着いた無人島。1周約8.5kmの大きさで伊豆諸島最南端の活火山。東京からの距離は約580km。

ジョン・ハウランド号の模型
万次郎たち5人を救ったアメリカの捕鯨船（船長：ウィリアム・H・ホイットフィールド）。食料のウミガメを捕獲する目的で鳥島に立ち寄り、万次郎たちを発見した。

[1F展示室]

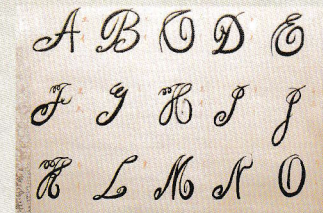
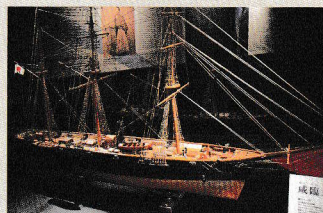
青年期ゾーン（アメリカ時代）

船長の養子となり、アメリカで教育を受ける。船で世界を航海しながら、日本へ帰ることを決意。

アメリカの学校で学んだ万次郎。卒業後は船に乗り、捕鯨航海へ。やがて、断ち難い故郷への想いと日本の開国を実現するために帰国を決意。ゴールドラッシュで資金を稼ぎ、日本へ戻ります。取り調べの後、土佐藩の武士に取り立てられます。

ドアノブ
万次郎が暮らした、米国マサチューセッツ州フェアヘーブンにあった「スコンティカットネック農場」の家のドアノブ（本物）。

撮影スポット
アメリカ式捕鯨を再現した撮影スポット。船の舳先に立つ銛打ちになった気分で記念撮影をしていただけます。

アドベンチャラー号の模型
万次郎が金の採掘で得た資金でホノルルで購入した小型ボート。琉球沖で商船からボートを降ろしてもらい、船を漕いで琉球に上陸。その後、薩摩・長崎に護送された。

[1F展示室]

壮年期ゾーン（幕末維新時代）

日本を近代化へと導く、幅広い活躍。時代に敏感な多くの志士が万次郎の元へ集う。

藩校教授として後に歴史に名を残す人物たちを指導。ペリー来航の際に直参旗本となり江戸へ。英語や航海術・測量術の指導、造船の指揮、翻訳や通訳など精力的に働く。勝海舟・福沢諭吉らと共に咸臨丸に乗り、アメリカ本土に渡る。

ABCの掛け軸
河田小龍邸で書かれたとされ、黒字は万次郎、赤字は小龍の筆とされています。万次郎の掛け軸で最も著名なもののひとつ。

帆船模型
黒船来航時の様子をイメージした西洋艦船と、咸臨丸の模型を展示。幕末の時代に活躍した帆船を多数展示しています。

英米対話捷径
万次郎が記した日本初の英会話ガイドブック。日常会話や船上で必要な英会話が載った当時のベストセラー。その後の日本の英語教育にも多大な影響を与えました。

日本画家
河田小龍
雲山歴史館 提供

万次郎が語ったアメリカを
画家・河田小龍が鮮やかに描いた

漂巽紀畧（ひょうそんきりゃく）

吉田東洋の命により万次郎から話を聞き取りした小龍。万次郎を自邸に住まわせ、読み書きを教え、自身は英語を教わりました。万次郎が語った米国の話に私見を入れず、挿絵を加えて記録。坂本龍馬など幕末の志士にも影響を与えた本です。

入場無料

[2F展示室]

体験・交流スペース

2Fは企画展や体験・交流のスペース。万次郎が参加したゴールドラッシュがきっかけで誕生したジーンズの歴史、友好姉妹都市フェアヘーブンやニューベッドフォードの情報を展示。ワークショップスペースも併設しています。